

1.研修プログラムの名称

形成外科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

形成外科では創傷治療理論に則った洗練された外科手技を用いて、主に軟部組織の疾患や異常を治療します。対象部位は全身の体表面近傍となりますが、特に特殊な軟部組織と硬組織の両方を同時に扱う顔面と手の手術は形成外科特有のものとなります。

東京医科大学形成外科では先天奇形から外傷・再建まで幅広く扱っていますが、中でも頭頸部や乳房の再建手術が多くあります。スタッフの出身大学も多様で学閥はありません。女性医師も活躍しています。

3.到達目標

日常診療の中で診療チームの一員として患者さんに接し、外科的な手技においてはテクニックに偏重せず基本原則の実地応用を重視します。再建手術や広範囲熱傷患者では、「外科的全身管理」を含めて確認します。

当科では研修を通して以下に掲げる項目の達成を目指します。

A. 医師としての基本的倫理観

診療チームの一員として治療に参加し、患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する姿勢を学びます。下記項目の達成を目指します。

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
2. 利他的な態度
3. 人間性の尊重
4. 自らを高める姿勢

B. 資質・能力

チーム医療の中で、患者に必要なかつ十分な適切な医療を提供するため、下記の項目の達成を目標とします。

1. 医学・医療における倫理性：倫理的な問題を認識し、患者の尊厳やプライバシーに配慮する。
2. 医学知識と問題対応能力：最新の知見に基づいた病態の鑑別や治療の立案ができるようにする。
3. 診療技能と患者ケア：臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安に配慮した診療を行い、これを適切に記録する。
4. コミュニケーション能力：接遇を理解し、患者・家族、他のスタッフと円滑にコミュニケーションをとる。
5. チーム医療の実践：チームの一員として治療に従事し、関わる全ての人々の役割を理解し連携する。
6. 医療の質と安全の管理：医療の質と安全な医療の提供を目指し、同時に医療従事者の安全性にも配慮する。
7. 社会における医療の実践：医療のもつ社会的側面を理解し、地域社会と国際社会に貢献する。
8. 科学的探究：科学的アプローチを理解し、抄読会や学術活動に参加する。臨床研究の意義を理解する。
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢；他の医師や医療従事者と共に研鑽し、自律的に学び続ける姿勢をもつ。

C. 基本的診療業務

上級医や指導医と綿密な連絡をとりつつ、研修修了時には下記項目について自立して行うことができることを目指します。

1. 一般外来診療
2. 病棟業務
3. 初期救急対応
4. 地域医療

上記を包括的かつ網羅的に経験し会得することができるよう、外来診療（一般外来、救急外来）、病棟業務、手術、カンファレンス等に積極的に参加し、具体的な下記小項目を経験できるようにします。

<I. 経験すべき診察法・検査・手技>

- i)全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- ii)頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔、口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む）ができ、記載

できる

iii)骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる

iv)単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる

v)X線C T検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる

vi)圧迫止血法を実施できる

vii)包帯法を実施できる

viii)ドレーン・チューブ類の管理ができる

ix)局所麻酔法を実施できる

x)創部消毒とガーゼ交換を実施できる

xi)簡単な切開・排膿を実施できる

xii)皮膚縫合法を実施できる

xiii)軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる

<II. 経験すべき症状・病態・疾患>

xiv)外傷について初期治療に参加できる

xv)熱傷について初期治療に参加できる

xvi)16.皮膚感染症を診察し、治療に参加できる

xvii)骨折を診察し、治療に参加できる

xviii)細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）を診察し、治療に参加できる

xix)熱傷を診察し、治療に参加できる

<III. 共通項目>

xx)診療録（退院サマリーを含む）をSOAPに従って記載し管理できる

xxi)処方箋、指示箋を作成し管理できる

xxii)診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる

xxiii)保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

4.指導体制・方略

指導医、研究医、専攻医とチームを組んで外来、入院患者の診療を行いながら学びます。

研修医テキストに則って基本的な知識を学習します。

5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
7:30～	症例検討会					
8:00～					手術検討会	
9:00～	全麻手術 回診	局麻手術 教授回診	局麻手術 回診	局麻手術 回診	全麻手術 回診	局麻手術 回診
17:00～	医局勉強会					

外来診療は午前・午後（土曜日は隔週で午前中）行なっています。

月・金曜日以外も他科との合同手術などが適宜入ります。

6.カンファレンス

- ・ 症例検討会（抄読会含む）
- ・ 手術検討会

7.研修活動

症例によっては「虐待への対応（CAPSとの連携）」や「薬剤耐性菌への対応」等を学ぶ機会があります。

8.評価

1) 研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

3) コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

9.その他特記事項

10.研修中に作成する病歴要約

（**赤字**必ず作成する、**太字**可能な限り作成する、他 対象疾患を診察したら作成する）

経験すべき症候

発疹、発熱、嘔気・嘔吐、**熱傷・外傷**、運動麻痺・筋力低下

経験すべき疾病・病態

高血圧、肺炎、急性胃腸炎、腎不全、**高エネルギー外傷・骨折**、糖尿病、脂質異常症、うつ病